

社名:

I 記載内容(コンテンツ)評価		評価項目	評価内容詳細: 記載されるべき事柄と評価ポイント	記載の有無	スコア	特記事項 (付加点を付けた場合はその理由。但し各評価項目+1、1社合計+3以内)
1. 組織概要とBM						
1-1. 価値創造 ビジネスモデル	事業概要	①事業の概要(事業セグメント、主な製品・サービス等)がわかりやすく説明されているか				
	ビジネスモデル (BM) の特徴/優位性	②ビジネスモデル(組織の短中期にわたり事業活動を通じてインプット類をアウトプット類及び「期待成果(outcome)」に変換するシステム)を理解できたか ③バリューチェーンにおける位置付け、差別的要素、BMの持続可能性が捉えられるか				
	資本類別 (財務/非財務資本)	④価値創造に不可欠な諸資本、経営資源(ステークホルダー、有形・無形資産など)が捉えられるか ⑤特に事業遂行上必要となる個別のIP(知的財産等)、組織知、人的資本、関係資本等のインプットが具体的に捉えられるか				
1-2. 事業環境/競合状況	外部環境	①企業の経営情勢と事業を左右する外部環境要因に関する説明/分析があるか				
	市場環境とポジショニング	②各事業の市場規模/自社のシェア(ポジショニングなど)が捉えられるか ③競合に関する説明と競合他社と比較した自社の競争優位性は捉えられるか				
	将来展望情報	④結果として将来の事業環境を見通す分析ができるか				
1-3. 歴史、価値観	会社の歴史・沿革	①創業以来の歴史/沿革、トピックス等から企業の成長・変化が理解できたか ②過去の事業/経営におけるトピックス(不祥事等を含む)に参照できるか				
	理念・価値観	③企業理念(創業精神の今日における意義)、ビジョン、ミッション等が捉えられるか ④企業理念を踏まえて、行動規範(社是・倫理規範・行動原則等)が示されており、社員への浸透性を感じたか				
2. 経営戦略/将来見通し						
2-1. 事業戦略		「戦略」については、事業の持続可能性について評価するに当たり、SDGsやTCFDに代表される世界的な社会・環境課題への対応が適切になされているかにも留意する				
2-1-1. 現在の戦略	事業戦略説明	①全社レベルの戦略に関する説明(背景/環境認識/全社レベルの戦略との関係を含む)				
	経営資源の配分	②各事業セグメント毎の戦略に関する詳細な説明 ③戦略遂行に必要な経営資源(有形・無形資産)とその配分/投資についての記載				
	課題への対応	④事業遂行における課題の抽出と対処法、また財務戦略との関連性 ⑤自社の特性に合わせたCSRの重要課題が特定され、課題解決に向けての実行性を感じたか				
2-1-2. 過去の戦略と評価	過去の中計等のレビュー	①過去の戦略(中計等)の遂行結果の記述(結果分析、課題・改善策等) ②過去の事業成果(4-1)、重要な経営指標(KPI)との関連性をもった記述/評価				
2-1-3. 将来の目標/方向性	中長期目標と戦略・テーマ	①今後3~5年(中期)、10年~(長期)の目標・計画の明示(財務中心でも可) ②具体的な戦略、取り組むテーマ(事業領域、投資、M&A等)が示されているか				
	経営資源の適確な配分	③競争優位を支える経営資源(R&D、知財、人材など)に対する投資・強化策が捉えられるか				
	社会的課題への対応	④グローバルな社会的課題(SDGs, TCFD等)への対応を考慮しているか ⑤ESG関連の目標・KPIがあるか				
2-2. リスクとその対応	重要なリスクの特定	①事業遂行上考えられる重要なリスクが理解でき、解りやすく表現されていたか				
	リスクの可能性と対応	②リスク発生の可能性やSHへの影響、その対処・管理方法についての具体的に記述されているか				
	ES関連リスクの特定	③特に気候変動等に代表される環境・社会に係るリスク影響とそれらへの対応				
2-3. Key ProcessとKPI	ビジネス成功・維持の鍵	①現在の事業が成功する鍵となる重要なプロセス(ビジネス要素)、またビジネス・サイクル(事業の収益維持可能期間、または収益喪失可能性年限)が説明されているか				
	KPIの特定	②事業を成功に導くためのプロセスにおける主要経営指標(KPI)が合理的に特定されているか ③非財務面のKPIが特定され、それらが価値創造に結びつけて説明されているか				
3. ESG関連情報						
3-1. 環境対応	ESに関して以下の点を評価 ・自社のBM/価値創造との関係でのマテリアリティの特定	①事業が地球環境に対して及ぼす影響とその対処について記述 ②企業が環境に対して配慮している諸事項と目標(KPI等)				
3-2. 社会的責任	・事業戦略の中でのES対応	①事業が社会に対して及ぼす影響とその対処 ②顧客、取引先(サプライチェーンを含む)に対して配慮している諸事項と目標(KPI) ③自社の従業員等に対して配慮している諸事項(多様性、能力開発など)と目標(KPI) ④その他対社会において配慮している諸事項と目標(KPI)				
3-3. 企業統治		①企業統治の基本姿勢(自己規律の確立)が確認され、経営監視上導入している工夫(任意の諮問委員会等)の説明 ②役員報酬決定の手法と方法の妥当性および役員報酬開示(個別開示等)への取り組み ③役員のスキルセットの開示など、能力・経験等のバランス、多様性に十分配慮しているか ④経営監視面の機能(独立社外取締役、コンプライアンス、内部統制の状況など)の実効性 ⑤過去の不祥事等ネガティブな情報の記載とそれに対して採られた対応についての記載 ⑥CGコードへの対応、重要なガバナンス課題などの開示が適切になされていると感じたか				
4. パフォーマンスと財務 (21点)						
4-1. 過去の事業成果	長期の実績データ (財務・非財務)	①過去(長期)の業績データが十分に且つわかりやすく説明されているか				
	重要な経営・財務指標と実績評価	②財務指標(ROE, ROA, EPS等)を含む重要な経営指標を明示され、具体的な説明があるか ③事業成果と戦略との整合性の記述等実績評価に関する説明				
	「期待成果 (outcome)」の特定	④諸資本提供者の「期待成果(outcome)」の記載と企業価値との関係が評価できるか				
	非財務・CSRデータの工夫	⑤CSR関連の重要なデータの推移と実績評価 ⑥特に重要な非財務関連データの開示の工夫				
4-2. 過去の資本/財務政策		①過去の資本政策(増資等)に関する全てのデータ ②配当/自己株取得の実績データと合理的な株主還元方針の記載 ③過去の財務戦略(特に負債・資本構成比率の考え方)に関する記載				
4-3. 株主パフォーマンス実績/評価	TSR (総株主リターン) 実績データ 相対実績評価/リスク評価 TSRの実績評価	①過去(上場以来、増資以降、5年、10年)の配当込みのTSRの実績 ②相対比較(対市場、対業種、対競合会社)及びリスク(σ)関連の情報 ③経営者としてのTSR実績評価(想定資本コストとの比較があればベスト)				
4-4. 現在の財務状況		①現在の財務状況に関する評価/分析 ②特に資本コストとの関係、格付けとの関係についての記述があるか				
4-5. 将来の資本財務戦略		①経営上目標とする財務指標を含む経営指標の数値とその採用理由 ②目標を達成するために取り組む施策に関する説明 ③中・長期の資本政策(配当性向、自己株取得等)、および負債・資本構成の方針				
II 統合的開示の評価		評価項目	評価内容詳細: IIRCの統合報告FWを参照した「統合報告」としての完成度を採点してください。		スコア	コメント (任意)
5. 戦略的焦点と将来志向	価値創造に結び付く戦略ストーリー	①会社の戦略が将来の価値創造へと結びつく内容で、理解しやすい「ストーリー」で語られているか				
	諸資本/経営資源の戦略的活用	②統合的思考により「サイロ問題」の克服を意識して「諸資本」をいかに有機的に活用するか、また事業を介しての諸資本への影響について記載があったか				
6. コネクティビティ(情報の相互関係)	経営理念/長期目標とBM/価値創造との関係	①会社が目指す方向・目標が、BMや価値創造(課題解決や経済的価値と社会的価値双方を含む)と整合的に結び付けられるか				
	過去・現在・将来の連続性	②1期間に留まらず、過去の一定期間の組織活動の結果と分析が記載されており、将来の戦略展開の成否の予想分析が行えるようになっているか				
	財務情報と非財務情報の結びつき	③関連する財務データ相互、非財務情報相互および両者間の関連性が示されているか ④特に「ロジックツリー」などを使って、価値創造プロセスを財務・非財務データに落とし込んでいるか				
	CSRと経営戦略/事業の関連性	⑤外部環境の変化(バリエーション、SDGsなど)に対する自社のCSR課題を事業活動との関係で特定しているか ⑥CSR関連情報が事業と結び付けて、戦略等の経営情報の中で説明されているか ⑦CSR課題に対する戦略目標(KPIを含む)の評価、PDCA等による管理がなされているか				
7. マテリアリティ (重要性)	重要なステークホルダーの特定	①自社の経営に影響を与える主たるステークホルダー、及びそれらの求める期待についての記載				
	ステークホルダーの関心に則した情報	②主たるステークホルダーの求めるもの/関心事項に関する期待成果や将来のパフォーマンスに関するデータや説明があり、双方向での対話が行えるよう工夫されている				
8. 一貫性・信頼性・比較可能性		開示されているデータは過去からの一貫性、信頼性が保たれ比較可能性があるか				
9. 簡潔性/読みやすさ/ビジュアル		記載されている情報・データの表現が簡潔明瞭となるように、文章および写真・グラフ・チャート・イラストなどがデザインが優れ読みやすくとめられているか				
III 開示の説得力			評価内容: 最後の感想として採点してください。		スコア	コメント (任意)
10. 透明性		会社の経営実態、また事業活動上の課題などについて把握でき、経営陣にとって都合の悪い情報についても開示がなされており、信頼性が高められた				
11. 持続可能性		会社の将来を見通せて、また経営が社会的課題の解決に取組んでおり、持続可能性が確信できた				
12. リーダーシップ		会社の経営陣(特にトップ)のリーダーシップと経営力が感じ取れた				
13. 信頼性		(経営幹部等による)記載内容に関する真正性(誠実性)表明				
14. 長期関与のインセンティブ		会社へ、財務資本をはじめ各種資本を将来にわたり提供することを通じ、長期にわたり関与しようとする思いが高められたか				
合計					0.0	